



日本の総人口が減少するなか 練馬区の人口が71万人を突破！！

～豊かな自然と住環境で子どものいるファミリー層に人気～

4月2日、練馬区の登録人口（住民基本台帳に登録された人口、外国人を含む）が710,055人となり、初めて71万人を突破した。

この人口は、東京都内では、世田谷区に次いで2番目、全国でも20番目に多く、鳥取県や島根県の人口を上回る。（平成25年4月現在）

近年、子育て世代等の都心回帰が進み、東京都心の自治体の人口が増加しているが、都心部へのアクセスがよく、公園や農地などのみどりが豊かな住宅都市である練馬区は、その住環境の良さから、ファミリー層に人気で、戦後ほぼ一貫して人口の増加が続いている。平成24年中の出生数も、東京都内では世田谷区、江戸川区に次いで3番目に多い。

区の担当者は、「**ともに築き 未来へつなぐ 人とみどりが輝く わがまち練馬**」をスローガンに、区民が住みやすい魅力的なまちづくりを進めていきます」と話している。

【人口の推移】

区の人口は、昭和22年に板橋区からの独立した当時は、約11万人であった。人口増加は、昭和30年代前半から40年代半ばにかけての高度経済成長に著しく、毎年2～3万人の増加で推移した。昭和53年から56年に、わずかではあるが人口が減少した時期もあったが、昭和61年には、光が丘地区等の開発に伴い約11,000人が増加し、都内でも際立って大きい伸びを示した。その後も今日まで逡増し続け、平成20年4月14日には登録人口70万人を突破していた。



練馬区役所から光が丘方面を望む

【練馬区の将来推計人口】（平成25年3月 練馬区地域医療計画より）

今後も人口は増加を続け、平成38年には74万人を超え、平成58年には74万7千人となる見通しである。

【練馬区の特徴】

昭和22年に板橋区から独立し、特別区23番目の区として誕生した。区内には石神井公園や光が丘公園等みどり豊かな公園や農業体験農園などの農とふれあう場も多い。平成23年の調査における緑被率は25.4%（樹木・農地等みどりで覆われている土地面積/区域面積）と23区で第1位であり、みどりに恵まれた住環境といえる。また、日本のアニメ発祥の地ともいわれ、区内には90社以上に及ぶアニメ関連企業が集積している。